

オンライン I R 説明

2021年2月

目次

- ◇ 会社概要
- ◇ 取組み・成果
- ◇ 連結業績
- ◇ 通期業績見通し
- ◇ 成長戦略

会社概要

会社概要

社会インフラを支える水と空気のプロフェッショナル集団

社 名：ポエック株式会社 Puequ Co., LTD.

上場証券取引所：東京証券取引所 JASDAQ市場（証券コード：9264）

設 立：1989年1月25日

本 社：〒721-0973 広島県福山市南蔵王町2-1-12

代 表 者：代表取締役会長 来山（きたやま）哲二

代表取締役社長 采女（うねめ）信二郎

資 本 金：1,013,207千円（2020年8月現在）

従業員数：72名/連結229名（2020年8月現在）

事 業 所：仙台・北陸・東京・名古屋・大阪・岡山・広島・福山・松山・高松・福岡

連結子会社：株式会社三和テスコ（香川県高松市）出資比率100%

東洋精機産業株式会社（岡山県岡山市）出資比率100%

協立電機工業株式会社（神奈川県茅ヶ崎市）出資比率100%

事業内容

20/8期 連結売上高 6,104百万円

環境・エネルギー事業 (売上高2,961百万円)

環境・水処理機器の販売・修理・保守

ポンプ



プレート&シェル
熱交換器



景観配慮型防潮壁
(SEAWALL)



オゾン発生装置



据置型
P03-5G



据置型
P03-12G

動力・重機事業 (売上高2,410百万円)

プラント設備

ボイラー・圧力容器等



大型船舶エンジン台版
エンジン台版



機械加工部品

小型精密部品



船舶用燃料弁等

防災・安全事業 (売上高732百万円)

消火装置

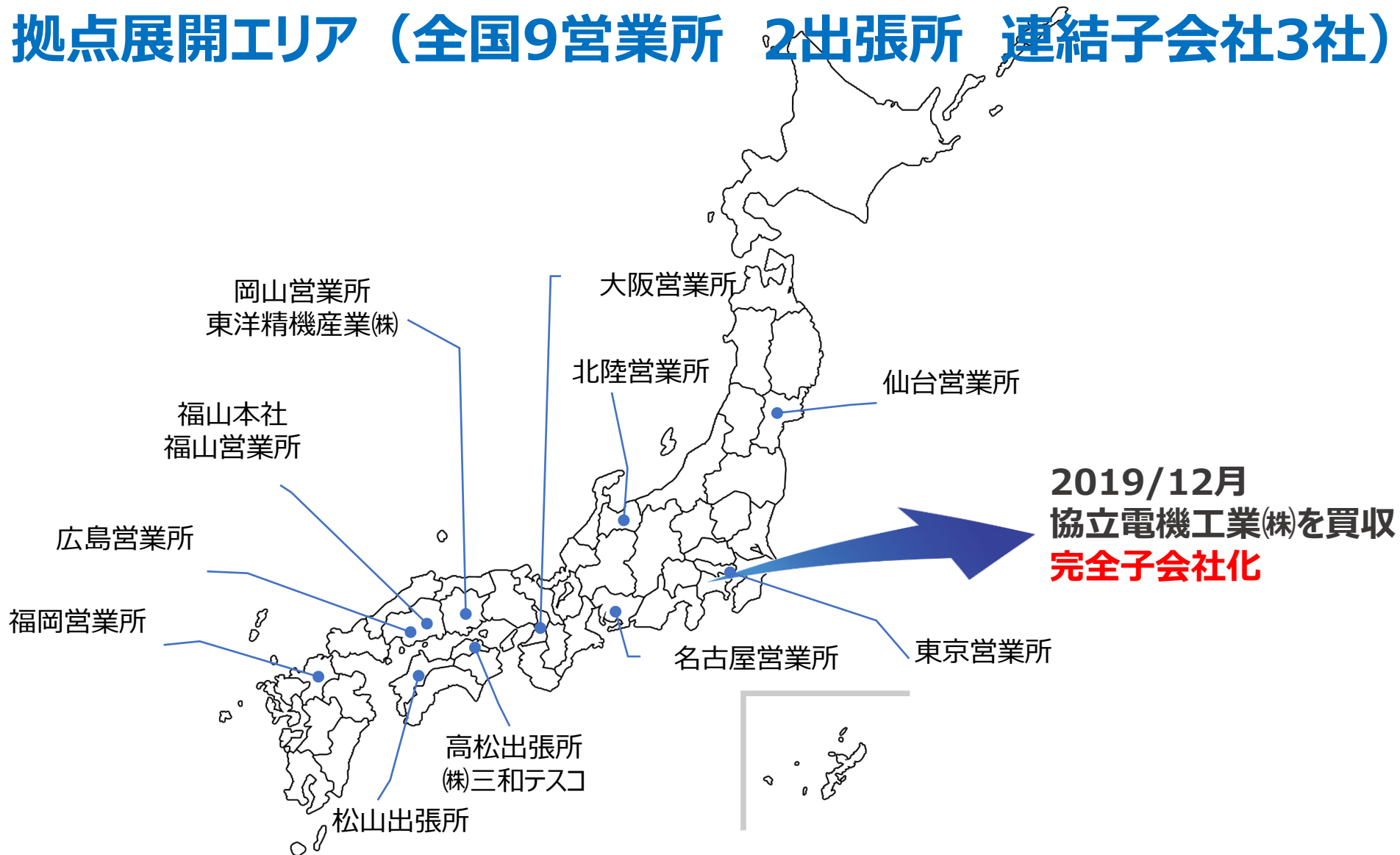
その他消防機器販売・設置工事

電気不要のスプリンクラー消火装置「ナイアス」



事業拠点

拠点展開エリア（全国9営業所 2出張所 連結子会社3社）



取組み・成果

連結業績

最高売上高

最高益 更新中

財務強化

自己資本比率

連結17% →

29%

単体30% →

46%

MSワラント実施によりM&A及び投融資資金を調達

JASDAQ上場後の変遷

経営指標

ROA 1.8% → 2.6%
(総資産利益率)

ROE 10.1% → 8.6%
(自己資本利益率)

調達資金を有望事業に投資、育成し、ROEを高める
→ポエックグループ共通の使命

連結グループ

M&A 2社

業績は順調に推移

協立電機工業(株)

(株)ミモト
(三和テスコと合併)

経営規模

グループ^o社員数

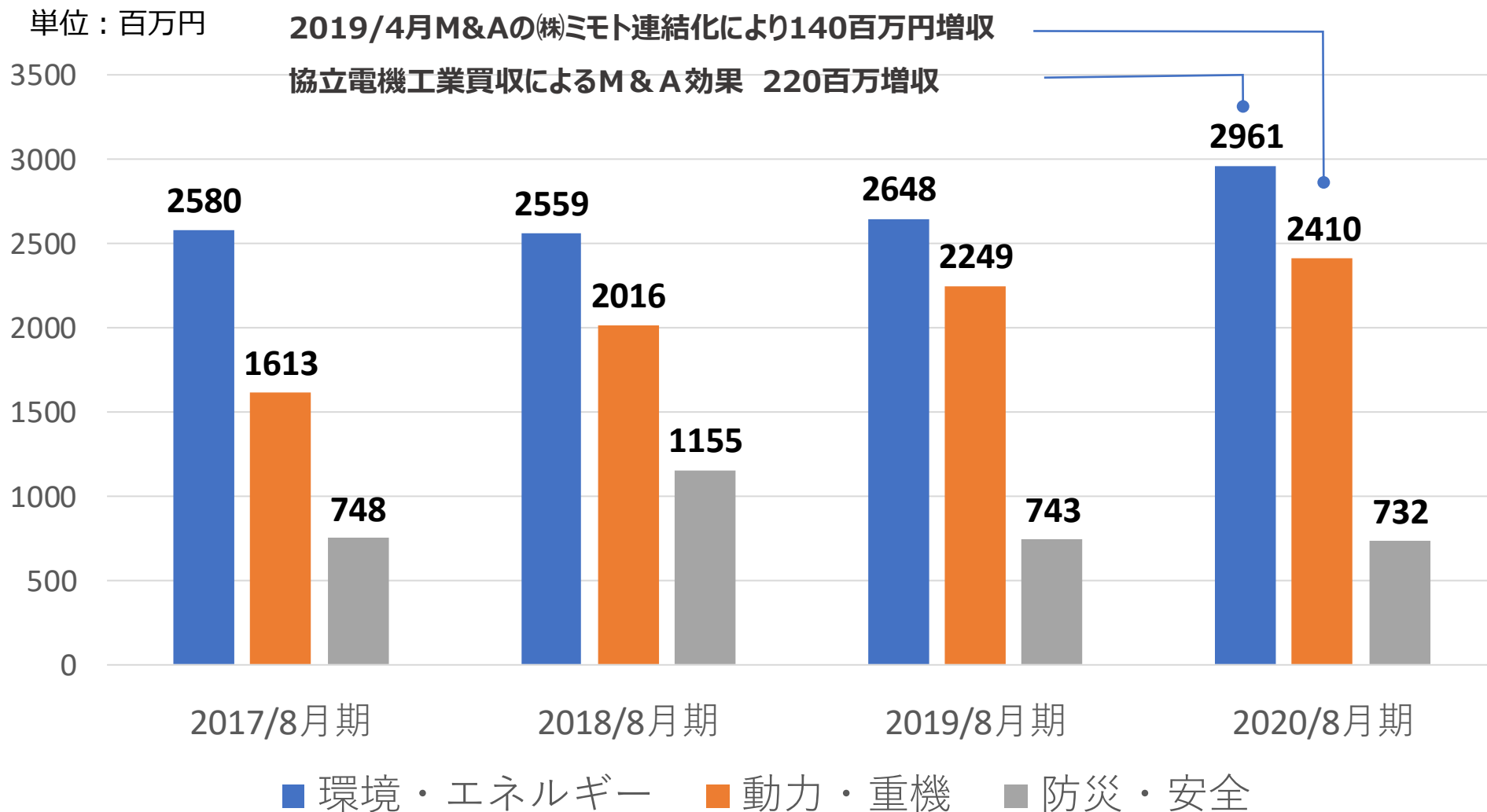
182名 → 229名

業績に連動して事業規模を拡大

連結業績

売上高

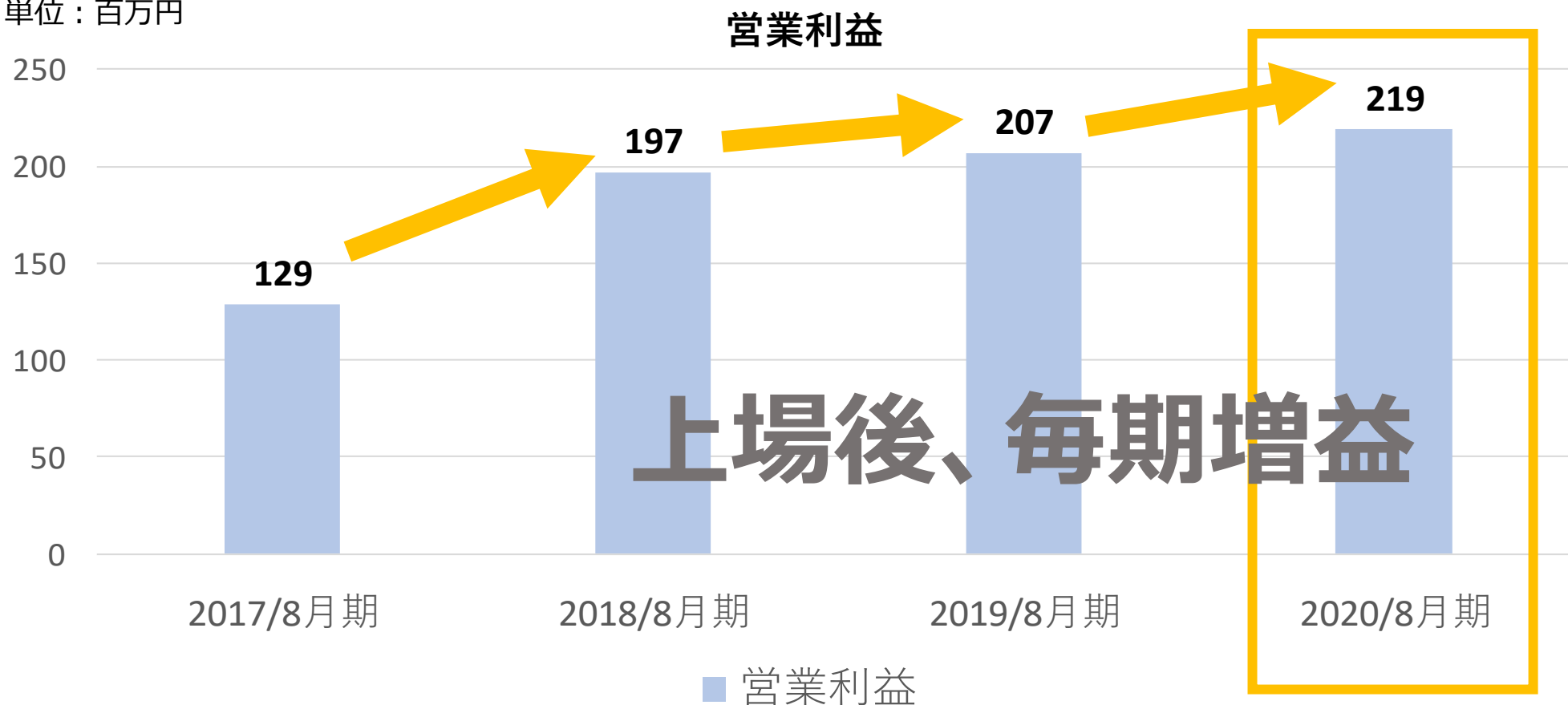
安定成長に加えてM&A効果が業績に寄与



営業利益

堅調推移-コロナウイルス感染被害が拡大し営業効率が低下した一方、M&A、原価低減、人材強化策で下支え

単位：百万円



通期業績見通し

予想-連結損益計算書 (P/L) 3期間比較

2020/8月期は環境・エネルギー事業が成長の柱
動力・重機等、防災・安全事業は保守的に計画

単位：百万円

	19/8月期末 通期実績	20/8月期末 通期実績		21/8月期末 通期連結 業績予想	前年同期比 (%)
売上高	5,641	6,104		6,589	107.9
売上総利益	1,090	1,223		1,347	110.1
販売管理費	882	1,003		1,049	104.6
営業利益	207	219		298	136.1
経常利益	193	255		291	114.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	143	222		182	82.0

売上高-新たな取組みと見通し

環境・エネルギー

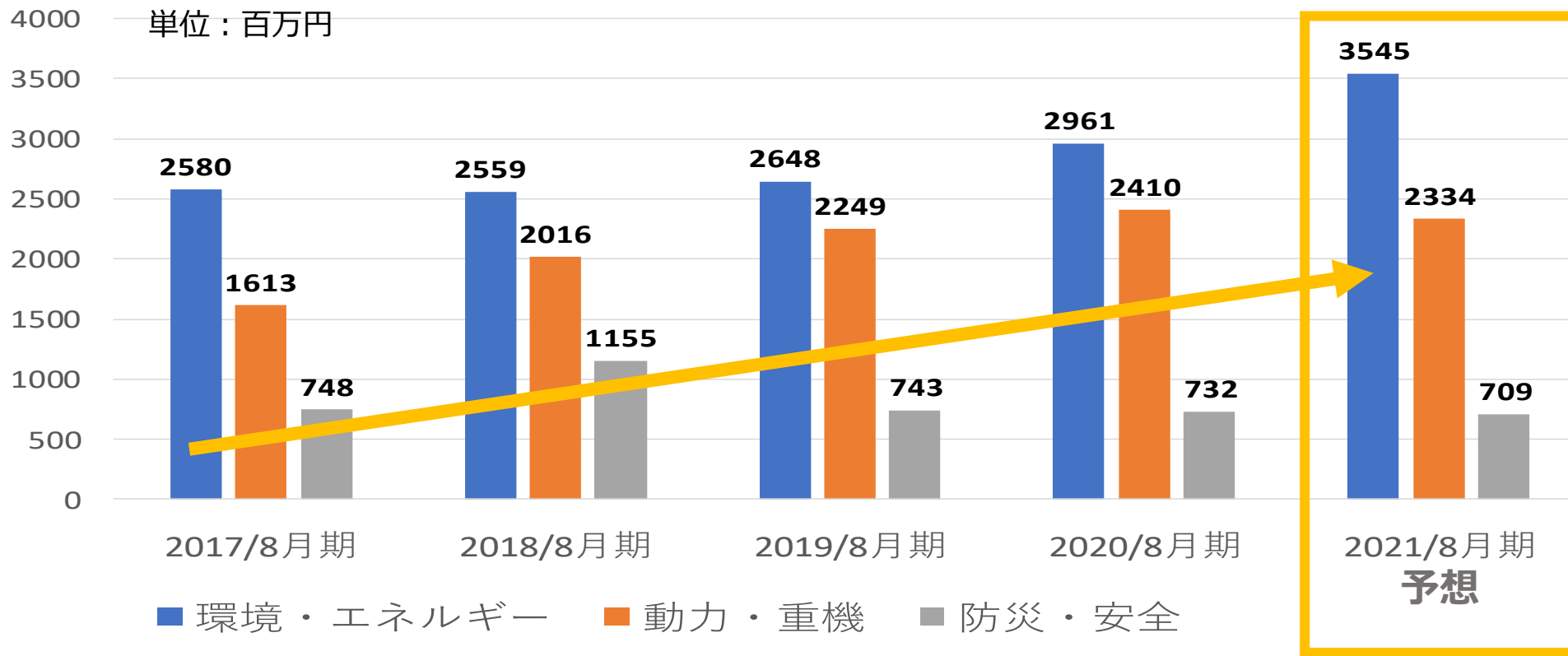
- 営業体制強化、防潮壁シーウォール及びオゾン装置需要の増加により成長見込み

動力・重機

- 船舶排ガス規制による関連機器で需要増加の期待があるが計画は保守的に見積り

防災・安全

- コロナウイルスの影響から市場に不透明感が残る。一方、需要は安定的で計画は前期並



成長戦略

Create the future

成長戦略

連結グループ間の連携強化及び成長事業への投資を推進

グループ
連携強化

M&A

成長戦略

成長事業
への投資

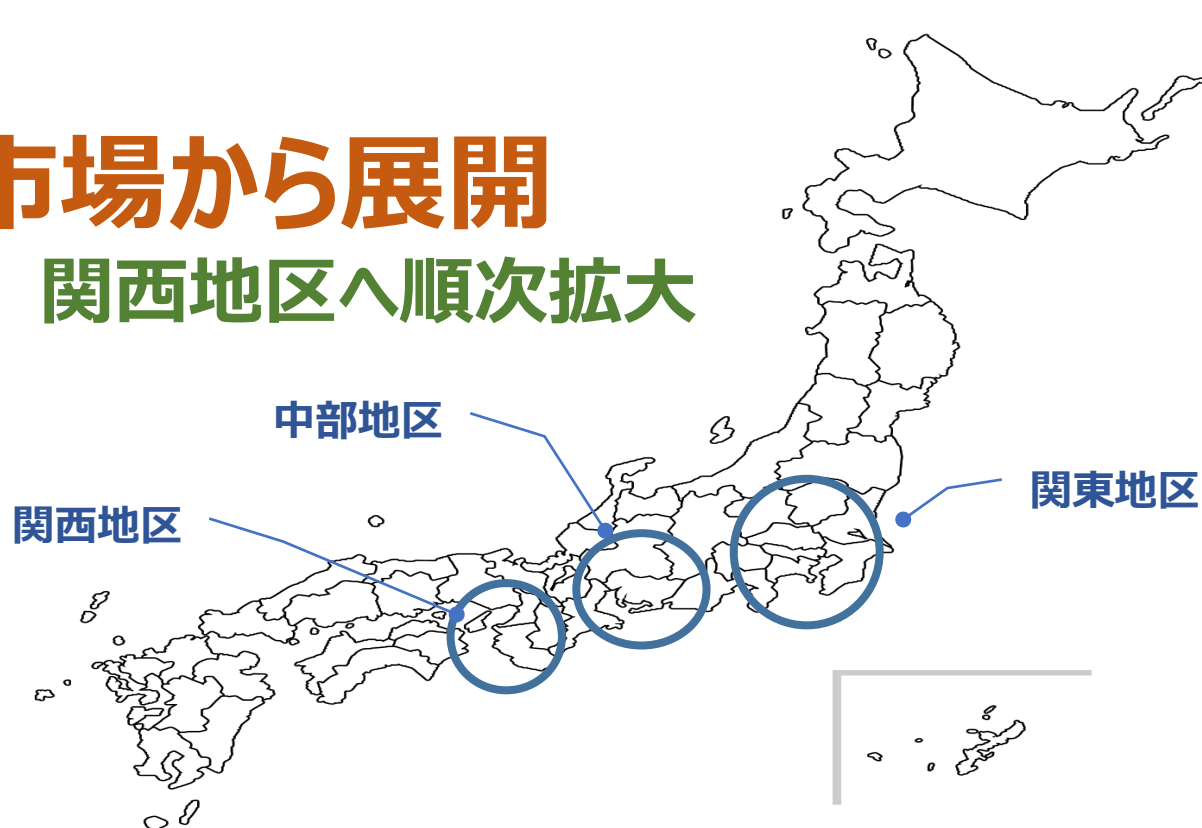
新商品開発

グループ連携強化

当社とM&Aによる買収先 協立電機工業が連携して機器の修理事業を協働展開

まずは、**関東市場から展開**

→ 中部地区 → 関西地区へ順次拡大



成長事業アムノスHD羊膜製造販売事業への投資

当社出資比率13.5% 株式会社アムノス事業内容：再生医療に関わる調査、研究開発、製造・販売および輸出入

既存安定3事業の原資を将来性の高いビジネスに投資

再生医療周辺産業の市場規模は、2050年には**国内市場1.3兆円、世界市場15兆円**

進捗

収益事業計画は着実に進捗

同社の経営管理体制の整備に向けて
当社社長が同社の取締役役に就任しサポート

多様な資金調達手段を確保し、海外での事業展開を推進



新商品開発

- 新種のウイルス被害拡大に向けた不活化技術開発 -

2020年7月 多様なウイルスに対して有効な不活化機能を発揮するオゾン装置の開発をスタートする共同研究契約を国立大学法人東北大学と締結

共同研究体制・概要-オゾン装置開発

海外展開も視野に入れた新技術開発を推進



国際放射光イノベーション・
スマート研究センター

大学院 農学研究科



研究テーマ

オゾンガスがウイルスに及ぼす影響と研究成果に基づく、
ウイルス被害に有効なオゾン装置の開発

共同研究において 利活用される技術の概要

- ・ オゾンガス発生及びオゾン水製造技術（2020年～）
- ・ 次世代放射光技術によるメカニズム解明
FS（2020年～）次世代放射光施設（2023年～）
- ・ ナノバブル技術（2021年～）

当社グループ事業との関連性を重視

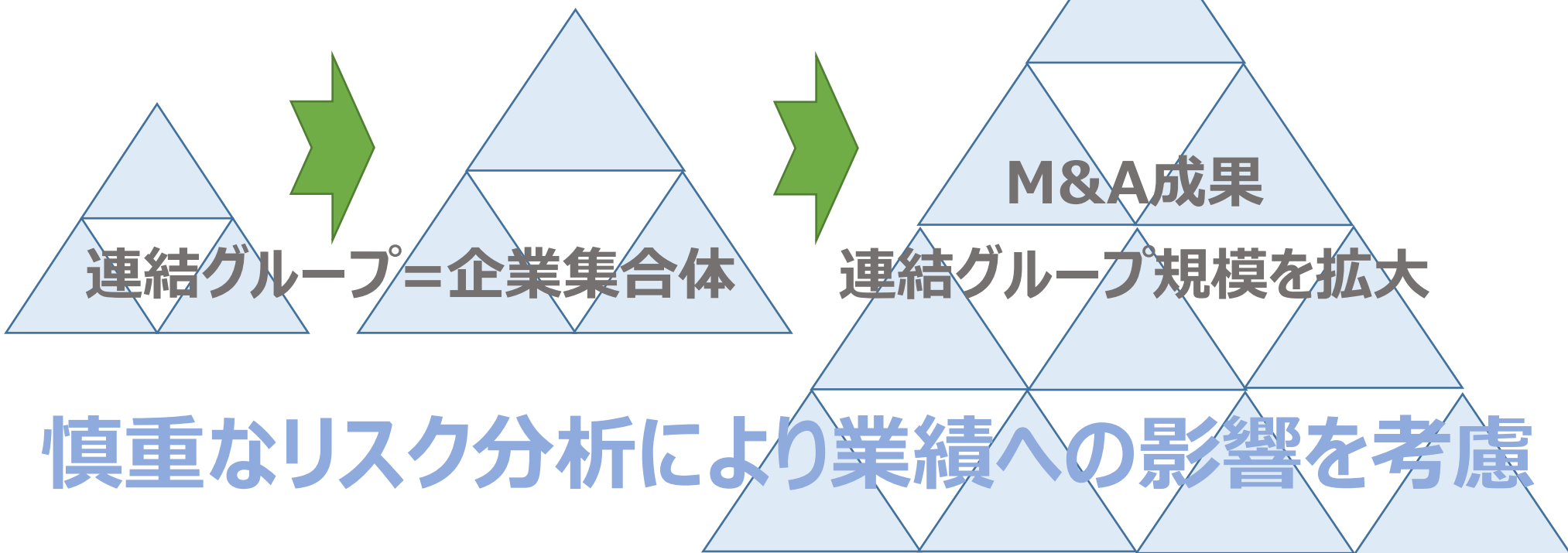
事業との関連性を重視し

営業強化・利益拡大につながるM&A

方向性

企業価値の向上に繋がるM&Aへの取組を積極化

スケールメリットにより企業価値を高める



成長戦略の成果

時代に即した事業への投資

→市場とのマッチング効果を高めることに注力

従来、当社グループは財務レバレッジを利かした経営により

事業を拡大、成長してきました！ **今後は・・・**

→ROAを高め、その成果としてROEを高める方向へ

ROA  **ROE**
(総資産利益率) (自己資本利益率)

持続的成長を目指す

Aiming For Sustainable Growth